



# 学校図書館だより

## 11月号

令和3年11月  
柏市立富勢中学校  
柏市学校図書館指導員  
岩瀬 瞳

木々が色づき、秋が深まってきました。朝晩は冷え込むようになりましたが、日中は明るい青空とあたたかい日が続き、気持ちのいい季節です。「読書の秋」というのは、8世紀中国の文人韓愈の詩の一節から広まったとされる「灯火親しむべし」に由来すると言われていています。「秋は過ごしやすい季節だから、夜には灯りをともして読書をするのによい」といった意味です。最近本と離れていた人も、秋の夜長にちょっと本を手にとってみませんか。

### 令和3年度「市内中学生ビブリオバトル」開催

10月27日（水）に「柏市内中学生ビブリオバトル（知的書評合戦）」の決勝大会がオンラインで行われました。

チャンプ本 『熱帯』 森見登美彦 著 文藝春秋

準チャンプ本 『100の思考実験 あなたはどこまで考えられるか』

ジュリアン・バジーニ 著 向井和美 訳 紀伊國屋書店

富勢中からは3学年代表に選ばれた笠井穂羽さん（3-1）と石山心人さん（3-5）の二人が出場しました。予選グループでそれぞれチャンプ本に選ばれ、決勝へ進みました。ビブリオバトルは、本の魅力や読んだ自分の思いを伝え、共有し、新しい世界が開かれていくことが醍醐味です。笠井さんも石山さんも予選、決勝と生き生きと魅力的な発表で、新しい価値観や考えることの楽しさ、読むことで世界の見え方が変わることを伝えてくれました。12月に予定されている新着図書展示会には二人が紹介した本も入っています。お楽しみに。



## 今月のおすすめ

### 『ポケット詩集』

田中和雄 編 童話屋〈911/タナ〉

詩を読んで、よくわからないけれど目が開かれたような経験をしたことはありませんか。この本のまえがきに「いい詩というのは、詩人が自分の思いをどこまでも深く掘りさげて普遍（ほんとうのこと）にまで届いた詩のこと」と書かれています。詩人たちが紡ぐほんとうの言葉に出会い、あなたの中に渦巻く名づけることのできない思いが共鳴する。大切にしたい言葉と出会えますように。

### 『寺山修司少女詩集』

寺山修司 著 角川書店〈911/テラ〉

歌人であり、詩人、劇作家、映画監督、競馬評論家でもあった寺山修司。元祖マルチクリエーターの彼は既成の価値観にとらわれない創作活動を続けました。「なみだは にんげんのつくることのできる ーばん小さな 海です」（「ーばんみじかい抒情詩」）からはじまるこの詩集。言葉の錬金術師と呼ばれた寺山修司のことはと友だちになってみませんか。

### 11月生まれの詩人

はぎわらさくたろう

萩原 朔太郎(1886-1942)



「詩とは感情の神経を掴んだものである。

生きて働く心理学である。」

『月に吠える』序文より

萩原朔太郎は、1886年11月1日群馬県生まれの詩人です。中学生の頃から創作を始めました。30歳のとき、初めての詩集『月に吠える』を刊行し、詩人たちに大きな影響を与えました。

2年生の国語の教科書でも紹介されています。

出典『ポプラディアプラス 人物事典3』ポプラ社

他にもたくさんの歌集・詩集があります。分類番号911の棚をチェックしてみてください。



\*ライブラリーサーチより一部引用しています。